

令和5年2月1日

平野中だより

＜学校教育目標＞ ともに学び 挑み 夢を語る生徒



蓮田市立平野中学校 TEL048-766-9003

ホームページ <http://hiranojhs.o.oo7.jp>

Eメール i-hirano.hasuda@nifty.com 心のホット相談室 TEL&FAX 766-9393

「気持ちの持続 ～大きな夢へ～」

校長

令和5年大相撲初場所、横綱・照ノ富士の休場の中で始まり、大関・貴景勝が1月22日の千秋楽において、埼玉栄高校の後輩でもある平幕・琴勝峰に「すくい投げ」で勝ち、3年前の11月場所以来、13場所ぶり3回目の優勝を果たしました。勝負が決まった直後の土俵上で、貴景勝が琴勝峰の肩に手をそえる光景も見られました。

大相撲はひと場所15日間取り組まれ、最終日を千秋楽と呼びます。11日目、小結・琴ノ若との一番でけい椎を痛め、痛みをこらえ治療しながら土俵に上がり続け、最後まで優勝を争って土俵を締めました。その大関・貴景勝のことばをいくつか紹介します。



＜大関・貴景勝＞

*大関という地位は勝たないといけない地位なので、つらい時や頑張らないといけない時もあったが、誰でもこの地位になれるわけではないので、重圧を感謝に変えてこの2年間取り組んできた。

*相撲は1日の勝負ではなく、15日間の勝負なので、いかに気持ちを切らさず1日1日の力を出し切れるか。その精神が強い人が成績を残せると思うので、気持ちだけ切らさないでやった。

大関・貴景勝の言葉を、3年生の現在の気持ち置き換えてみると・・・

「つらいと時や頑張らないといけない時もあったが、(受験という)重圧を感謝に変えて取り組んできた」「いかに気持ちを切らさず・・・その精神が強い人が成績を残せる。気持ちだけ切らさない」という具合に、重なる部分もあるのではないのでしょうか。1, 2年生ならばどのようなになるのでしょうか。

志を決めた時の熱く高い目標、そのために持ち続ける信念。そして現状から逃げることなく精進し続けるたゆまぬ努力。うまくいかないことがあると、どうしてもネガティブなことを考えがちになりますが、まずはとにかくポジティブな前向きな考えをもって行動を起こしましょう。仲間と励まし合いながら、大きな夢の実現に向けて、日々の努力を惜しまず生活をしていきましょう。

♪ 今月の歌

早春賦

春は名のみの 風の寒さや
谷のうぐいす 歌は思えど
時にあらずと 声もたてず
時にあらずと 声もたてず

氷融け去り 葦はつのごむ
さては時ぞと 思うあやにく

今日も昨日も 雪の空
今日も昨日も 雪の空

春と聞かねば 知らでありしを
聞けばせかるる 胸の思いを

いかにせよとの この頃か
いかにせよとの この頃か

詞・吉丸一昌 曲・中田 章

【曲について】

○作詞者は、大正の初期に長野県安曇野を訪れ、穂高町あたりの雪解け風景に感銘を受けて詩を書き上げたときとされている。「春は名のみの」とは、立春(りっしゅん)を過ぎて暦の上での「春」になったことを指す。